

戦略 4

石川の未来を切り拓く 人づくり

- 施策1 次世代を担う人材の育成 86
- 施策2 地域の知の拠点たる高等教育機関と連携した
「学都石川」の発展 94
- 施策3 人生100年時代を見据えた、生涯にわたり
学び活躍できる環境の整備 97

戦略

4

石川の未来を切り拓く 人づくり

少子高齢化の進行、グローバル化やデジタル化の進展など社会が急激に変化する中、持続可能な社会の創り手を育成することが求められています。

こうした将来の予測が困難な時代においては、確かな学力に加えて、石川県の未来を切り拓く独創性や主体性を備えた子どもたちを社会全体で育むことが重要です。

また、高等教育機関の集積を活かし、産学官金連携による高等教育機関の「学び」の充実や地域の魅力向上や、生涯にわたり学び活躍できる環境の整備に取り組んでいく必要があります。

【主要目標】

指標名	基準値	目標値 (R14 年度)
全国学力調査の 平均正答率*	小 6 : 69.7% 中 3 : 62.0% (R4 年度)	⇒ 小 6 : 70%以上 中 3 : 70%以上
県内大学・短期 大学の志願者数	32,609 人 (R4 年度)	⇒ 34,000 人

※県内児童生徒の学力の到達状況を把握・分析し、教育施策の充実と学校現場における授業改善を図るためのもの

施策1 次世代を担う人材の育成

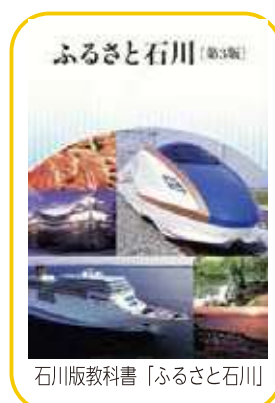
社会が急激に変化する中、石川県の文化や伝統を大切にしながら新しい時代をたくましく生きる力を育むため、一人一人の個性や適性に応じたきめ細かで質の高い教育を推し進め、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくりに取り組みます。

(1) いしかわに誇りと愛着を持ち、世界と地域に貢献する人材の育成

① ふるさと石川に対する誇りと愛着の醸成

石川ゆかりの偉人、先人や石川の文化・歴史・自然・産業を学び、郷土の特徴について理解を深め、ふるさと石川に対する誇りと愛着の醸成に取り組みます。

- 石川の文化や風土、産業などを活かしたふるさと教育の推進
- ふるさと石川に関する教材の活用の推進
- 地域と連携したふるさと体験学習の推進



② 地域の活性化に貢献できる人材の育成

地域社会の一員として主体的に参加する態度や地域に活力を与える企画力やチャレンジ精神を培い、地域の活性化に貢献できる人材の育成に取り組みます。

- 地域社会の一員として主体的に参画する人材の育成
- 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成
- 地元企業と連携した地域産業を支える人材の育成

③ イノベーションを担う人材の育成

社会経済の発展や地域産業の振興のため、新たな価値を創造する力や自ら進んで科学的に課題へ取り組む姿勢を備えた人材の育成に取り組みます。

- 科学への関心を高める取組及び科学的スキルの獲得に向けた取組の推進
- 新たな価値を創造するクリエイティブな力の育成
- 実社会での課題解決に向けたSTEAM教育の充実
- 企業家教育（アントレプレナーシップ教育）*の推進
- 大学や企業などと連携した最先端の知識・技能の習得

STEAM教育

STEAM教育とは、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術/リベラルアーツ（Art/Liberal Arts）、数学（Mathematics）などの各教科での学習を実社会での課題解決に活かしていくための教科横断的な教育のことです。

各分野が複雑に関係する現代社会において、新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力を育成します。



プログラミング言語を活用した電子工作

* 企業家教育（アントレプレナーシップ教育）…困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力（アントレプレナーシップ）を育む教育

④グローバル社会で活躍できる人材の育成

国際的に活躍できるグローバル・リーダーや、多様な価値観を理解できるグローバルな視点を持った人材の育成に取り組みます。

- 幅広い教養や国際的な視野の獲得
- 実践的な英語コミュニケーション能力の育成
- 小・中・高等学校を通じた英語教育の充実
- 金沢大学との連携等による教員の英語力と指導力の向上
- 留学生や海外の学校との交流活動の推進及び海外留学の促進

(2) 学力を高め、社会の変化に対応できる資質・能力の育成

①確かな学力の育成

社会の変化に対応できるよう、資質・能力の基盤となる確かな学力の育成に取り組みます。

- 石川県の学力向上の中長期的指針である「いしかわ学びの指針 12 か条(学びの 12 か条+(プラス))」の推進
- 学力調査等による現状把握と指導方法の改善
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)の推進
- 情報活用能力の育成及びプログラミング教育の充実
- 少人数指導や習熟度別指導など、きめ細かな指導体制の充実

「いしかわ学びの指針12か条」の推進

全国学力・学習状況調査から見られた課題を踏まえ、平成 23 年に、金沢大学と連携して、学力向上に向けた中長期的指針である「いしかわ学びの指針 12 か条」を策定しました。平成 28 年には、学力向上に向けた新たな課題や国の動向を踏まえて改訂を行い、さらに進化した指針として「学びの 12 か条+(プラス)」を示しました。

いしかわ学びの指針 12 か条 (学びの 12 か条+)

活用力を高める授業づくり

- ① 物事を多様な観点から考察する力の育成
- ② 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成
- ③ 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

学力・学習を支える基盤づくり

- ④ 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成
- ⑤ 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成
- ⑥ よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視
- ⑦ 主体的な問題解決のための効果的な ICT 活用の促進
- ⑧ よりよい学習習慣・生活習慣の定着
- ⑨ 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

指導改善を進める体制づくり

- ⑩ 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進
- ⑪ 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立
- ⑫ 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

② GIGAスクール構想[※]の実現による学びの質の向上

1人1台端末などICTの活用により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、学びの質の向上に取り組みます。

- ICTを活用した授業の推進
- 教員のICT活用指導力の向上

③ 実社会で必要とされる資質・能力の育成

コミュニケーション能力など実社会で必要とされる資質・能力の育成に取り組みます。

- 集団や社会の一員としてのコミュニケーション能力の育成
- 主権者として社会に参画する力の育成及び消費者教育の推進

④ キャリア教育・職業教育の充実

学びと実社会との結び付きを意識し、主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育・職業教育の充実に取り組みます。

- 発達の段階に応じたキャリア教育の推進
- 職場体験、インターンシップなどの体験活動の充実
- 時代のニーズに応じた職業教育の充実
- 県内の企業等と連携したキャリア教育の推進

職場体験（長期型企業実習）



接客業務

会計処理業務

⑤ 特別支援教育の充実

障害のある児童生徒など特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する個に応じた、きめ細かな質の高い指導・支援の充実を図るとともに、障害の有無に関わらず同じ場で共に学ぶインクルーシブ教育の推進に取り組みます。

- 特別支援学校の教育・機能の充実
- インクルーシブ教育の推進
- 小・中・高等学校における障害のある児童生徒への指導・支援の充実
- 特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制の充実
- 発達障害に対する教員の専門性の向上

インクルーシブ教育の推進

共生社会の形成に向けて、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場所で学ぶことを目指していきます。



特別支援学校の部活動（ボッチャ）において近隣高校の生徒と交流



いしかわ特別支援学校知的障害教育部門高等部を金沢向陽高校敷地内に移転（R7.4開校予定）イラストは両校の共用玄関イメージ

※ GIGA スクール構想…1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を確実に育成できる教育環境の実現を目指すもの

(3) 豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくり

①心の教育・道徳教育の充実

豊かな人間性や社会性を育てる心の教育・道徳教育の充実に取り組みます。

- いしかわ版道徳教材の活用など、道徳の指導方法の工夫・改善
- 学校・家庭・地域との連携による道徳教育の充実
- 豊かな心を育む読書活動の充実
- 絆を深める「心の教育」の充実
- ボランティア活動の推進

②人権教育の推進

児童生徒の発達段階に応じ、市町や社会教育関係団体と連携しながら、教育活動を通じた人権教育の推進に取り組みます。

- 学校教育における人権教育の推進
- 社会教育における人権教育の推進
- 教職員の人権意識の向上

③いじめ・不登校等への取組の充実

いじめの認知件数及び不登校児童生徒数が増加傾向にあることなどを踏まえ、困難を抱える児童生徒に対する支援の充実に取り組みます。

- いじめを見逃さない学校づくりの推進
- いじめ対応における警察との連携の徹底
- 不登校児童生徒及び保護者に対する支援体制の充実（スクールカウンセラー[※]等の配置や学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置など）
- 不登校の未然防止と早期対応の推進（生徒指導の充実や別室登校児童生徒対応のための教員の配置など）
- 不登校児童生徒への社会的自立に向けた支援の推進
- ヤングケアラーの早期発見

④体験活動の充実

能登の里山里海や白山手取川ユネスコ世界ジオパークなどでの自然体験活動等を充実し、豊かな心と健やかな体の育成に取り組みます。

- ESD（持続可能な開発のための教育）を踏まえた体験活動の推進
- 青少年教育施設等における体験活動の推進
- 多様な主体における環境教育・環境学習の推進 【再掲】（戦略6施策3(5)参照）

※ スクールカウンセラー…いじめや不登校などに対応するために、児童生徒の臨床心理に関する専門的な知識や経験を有し、児童生徒へのカウンセリング、教職員や保護者に対する助言・援助を行う専門家

⑤文化・芸術による子どもの豊かな心の育成

伝統文化・芸術に触れる機会の充実など文化・芸術活動を通じて、子どもの豊かな心の育成に取り組めます。

- 学校における文化活動の充実（古典芸能鑑賞教室など）
- 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行など文化部活動改革の推進

⑥健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成

体育の授業やスポーツを通じて、健やかな体と豊かな心身の育成に取り組めます。

- 学校体育の充実
- 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行など運動部活動改革の推進

学校部活動の地域連携

複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動の導入や、部活動指導員等に地域の人材を活用することにより、あくまで学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものです。



出典：スポーツ庁HP

学校部活動の地域クラブ活動への移行

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。



出典：スポーツ庁HP

⑦学校保健、学校給食、食育の充実

家庭や地域と連携し、学校保健や学校給食、食育の充実に取り組めます。

- 家庭や地域と連携した健康教育の推進
- 学校における食育の推進
- 学校給食における地場産物の一層の活用
- 子どもの生活リズム向上への普及啓発

⑧防災教育・安全教育の推進

地域や家庭と連携し、子どもの安全・安心のため、防災教育・安全教育の推進に取り組めます。

- 地域や家庭と連携した防災教育の推進
- 交通安全教育・防犯教育の推進
- 性犯罪・性暴力から子どもを守る生命（いのち）の安全教育の推進

(4) 信頼される質の高い学校づくり

① 教員のキャリアステージに応じた「いしかわ型教員研修体制」の充実

教員の指導力や専門性の向上を図るとともに、学校の組織的な課題対応力を強化するため、教員のキャリアステージに応じた「いしかわ型教員研修体制」の充実に取り組みます。

- 県教員総合研修センターによるキャリアステージに応じた研修の充実
- 校内研修の充実（若手教員早期育成プログラムなど）
- 教職員による児童生徒への性暴力等の防止

② 多様なニーズに応える学校づくりの推進

児童生徒や地域における多様なニーズに応える学校づくりを推進します。

- 高等学校の特色に応じた取組の充実
- 定時制・通信制高等学校の充実
- 外国人児童生徒等に対する支援
- 県立夜間中学の開設（令和7年4月開校予定）
- 高等学校入学者選抜における全国募集の拡大

夜間中学

様々な事情で義務教育を修了できなかった方や、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった方、本国で義務教育を修了していない外国籍の方などが、中学校等の学習内容をもう一度学び直すことができる学校です。

夜間中学も昼間の中学と同じ中学校であり、授業料は無償で、週5日間の授業を実施しています。全ての課程を修了すれば中学校卒業の資格を得ることができます。



イラスト提供：札幌市教育委員会

③ 教職員の多忙化改善の推進

教職員が心身の健康を保ちながら教材研究・授業準備、子どもたちと向き合う時間を十分確保するため、教職員の多忙化改善を推進します。

- 授業や校務のICT化の推進
 - 若手教員早期育成プログラムによる若手教員に対するサポート体制の充実
 - 外部人材の積極的な活用
 - 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行など部活動改革の推進
- 【再掲】（戦略4施策1（3）⑤、⑥参照）

④ 教育環境の整備・充実

質の高い学びを実現する教育環境の整備・充実に取り組みます。

- 学校施設の長寿命化など施設整備の推進
- 産業構造や技術革新に対応できる高等学校の環境整備
- 社会的な支援が必要な子どもへの奨学金等による支援

⑤教育DXの推進

児童生徒の情報活用能力の育成や授業の質の向上に向けて、学校における教科指導や校務のICT化により、教育分野でのDXを推進します。

- ICT環境の整備
- ICTを活用した授業の推進 【再掲】(戦略4 施策1(2) ②参照)
- 教員のICT活用指導力の向上 【再掲】(戦略4 施策1(2) ②参照)
- 情報活用能力の育成及びプログラミング教育の充実 【再掲】(戦略4 施策1(2) ①参照)
- 授業や校務のICT化の推進 【再掲】(戦略4 施策1(4) ③参照)
- 教育データの分析・利活用

(5) いしかわ師範塾における即戦力となる教員の養成・確保

教員を目指す学生等に対するきめ細かで実践的な研修の充実により、即戦力となる教員の養成・確保に取り組みます。

いしかわ師範塾

「いしかわ師範塾」では、石川県の公立学校教員を目指す大学3年生や大学院1年生、公立学校の講師を対象とした実践的な研修を実施しています。

近年、教員の世代交代が急速に進む中、新たに採用される若手教員が即戦力として学校で活躍できることを目指しており、ここで学ぶ塾生は、退職教員が講師を務める講義や、模擬授業、学校実習などを通して、教員としての心構えや実践的な指導方法を学びます。



いしかわ師範塾の授業

(6) 建学の精神を尊重した私学の振興

①私立学校の自主性を尊重した、教育環境の維持・向上や特色ある学校づくりへの支援

石川県の教育の重要な一翼を担う私立学校に対して、その自主性を尊重し、建学の精神に基づく特色ある学校づくりを支援します。

- 私立学校の自主性を尊重し、教育環境の維持・向上や特色ある学校づくりへの支援
- 私立学校における修学上の経済的負担の軽減
- 私立学校における経営の健全性の確保

②職業能力の育成等の役割を担う専修・各種学校の振興

職業に必要な能力の育成や教養の向上を図る役割を担う専修・各種学校の振興を図ります。

【KPI】

指標名	基準値		目標値 (R14 年度)
高校生の 県内就職率 【再掲】	91.5% (R4 年度)	⇒	90% 以上
高校生で英語検定 準 2 級程度以上の 英語力を有する 生徒の割合	57.7% (R4 年度)	⇒	60% 以上
自己肯定感の高い 児童生徒の割合	小 6 : 77.3% 中 3 : 78.7% (R4 年度)	⇒	小 6 : 85% 以上 中 3 : 80% 以上
ボランティア 活動を実施した 高等学校の割合	全校	⇒	維持
不登校児童生徒数	小中学校 27.9 人 高等学校 26.5 人 (千人あたり) (R 3 年度)	⇒	減少
学びの多様化学校 (いわゆる不登校特例校) の設置数	0 校 (R5 年度)	⇒	3 校
いしかわ師範塾の 年間修了者数	155 人 (R4 年度)	⇒	150 人

施策2 地域の知の拠点たる高等教育機関と連携した「学都石川」の発展

大学コンソーシアム石川を核とした多様な学びの充実、「学都石川」として県内全ての高等教育機関の魅力づくりと発信を推進します。また、高等教育機関と地域が一体となって地域の魅力を向上させる取組により、地域の課題解決に主体的に向き合うことができる人材や、グローバルな感覚を持ち国際的に活躍できる次世代の石川の担い手を育成します。

(1) 高等教育機関の多様な「学び」の推進

① 「大学コンソーシアム石川」を核とした、産学官金連携による「学び」の充実

学生や県民に多彩な学びの環境を提供するため、「大学コンソーシアム石川」を核とした、産学官金の連携による「学び」の充実を図ります。

- 社会のニーズに応じた高等教育機関相互や企業等との連携による学びの環境の充実
- 産業界のニーズを踏まえた高等教育機関でのリスキリングプログラムの開発・整理・マッチング【再掲】(戦略1施策1(1)参照)
- 生涯学び続けることを可能にする多様な「学び」の場の確保
- 「学都石川」の魅力の積極的な発信

大学コンソーシアム石川

石川県の全ての高等教育機関等で構成される団体で、相互の連携や地域連携などを通して、高等教育の充実を図るとともに、その成果を地域社会に還元することなどを目的としています。

学生や県民に多彩な学びの環境を提供する「いしかわシティカレッジ」では、学生への単位互換授業や県民への公開講座などを実施しています。



いしかわシティカレッジの講義

② 国際的な学術交流と人材育成の促進

国際舞台での活躍を志す学生を国際機関に派遣するなど、国際機関との連携を推進し、国際的な学術交流や人材育成を促進します。

- 学生の国際機関派遣等による国際感覚を持って地域貢献できる若者の育成
- 県内高等教育機関やUNU - I A S O U I K^{*}が連携して開催する学会やシンポジウムなどによる学術交流の促進

^{*} UNU - I A S O U I K (United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability Operating Unit Ishikawa/Kanazawa) …国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット

(2) 高等教育機関の知を活かした地域の魅力向上

① 地域の課題解決に向けた高等教育機関や企業との連携

地域が抱える課題解決に向け、地域の知の拠点たる高等教育機関や企業との連携を促進します。

- 高等教育機関や企業と地域が連携して実施する地域課題の解決への取組に対する支援
- 地域課題解決に向けた学生等の主体的な関わりの促進
- 豊かな自然や文化などを活かしたサテライトキャンパス構想の推進
【再掲】(戦略3施策6(4)②参照)

② 県立看護大学及び県立大学における人材育成や地域貢献の推進

県立看護大学及び県立大学において人材育成や地域貢献を推進し、地域から支持される特色と魅力ある大学となるよう取り組みます。

- 県立看護大学における保健・医療・福祉分野を牽引する看護師・保健師・助産師の育成
- 認定看護師をはじめとする看護リーダーの養成、地域医療の質向上への貢献
- 県立大学における農林水産業、製造業などで活躍できる人材の育成
- 産学官連携による受託研究や共同研究の推進、地域産業の発展への貢献
- 新たな社会ニーズや、地域や社会全体の課題解決に貢献する研究の推進

県立看護大学、県立大学の実習

〈県立看護大学〉

演習・実習を通して、看護専門職として必要な知識・技術を修得し、豊かな人間性と倫理観を備え、県民の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成します。



県立看護大学スキルラボでの実習

〈県立大学〉

専門的知識を深めるための実験・実習・フィールドワークを重視した教育を実施することで、「農・環境・食・バイオ」を複合的に学び、地域社会のニーズに応える人材を育成します。



県立大学 LEAF ラボでの実習

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14年度)
県内高等教育機関の県内産学官連携による共同研究・受託研究数	720件 (H30～R4年度の累計)	1,700件 (R5～R14年度の累計)
大学発スタートアップの創出数【再掲】	22件 (R4年度までの累計)	40件 (累計)
大学生のボランティア参加者数	9,000人 (R3年)	10,000人 (R13年)
地域課題解決などのフィールドワークプログラムに取り組む学生数【再掲】	300人 (R4年度)	5,000人 (R5～R14年度の累計)
県立看護大学における国家試験の合格率	看護師 98.8% 保健師 90.6% 助産師 100% (H29～R3年度の平均)	看護師 100% 保健師 100% 助産師 100%

施策3 人生100年時代を見据えた、生涯にわたり 学び活躍できる環境の整備

県民一人一人が、様々な機会を通じて学びを深め、その成果を社会で活かし、自己充実感を持って幸福に生きていくことができるよう、学び手の多様なニーズや時代の変化に対応した学習や情報を提供するとともに、全ての教育の出発点である家庭や地域の教育力の向上を図り、学校・家庭・地域が連携・協力した社会全体での教育力向上に向けた取組を推進します。

(1) 生涯にわたり学び続ける環境づくり

①生涯にわたる学習の推進

県民一人一人が生涯にわたり学び、自分の成長を実感できるよう、生涯学習を推進します。

- 多様な学習ニーズに応える学びの機会の充実
- 各地域における優れた取組の普及啓発の促進

県民への学びの機会の提供

「いつでも」「どこでも」をキャッチフレーズとし、県内にお住い、お勤めの方なら誰でも受講できる石川県民大学校を開設しています。

県・市町、大学、民間教育機関などが連携して、県内全域で様々な分野の講座を実施しています。



石川県民大学校の講義

②地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進

社会教育に携わる人材の養成や活躍機会の拡充などを通じて、持続的な地域コミュニティの基盤形成を図ります。

- 社会教育人材の養成・活躍機会の拡充
- 社会教育による地域づくりの支援
- 社会教育分野におけるデジタル活用の推進

(2) 家庭や地域の教育力の向上

地域住民との交流・学習活動や、家庭教育支援などにより、学校・家庭・地域が一体となって、家庭や地域の教育力の向上に取り組めます。

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- 絆を深める「心の教育」の充実 【再掲】(戦略4施策1(3)①参照)
- 親学び支援及び家庭教育相談体制の充実
- 放課後子ども教室等による地域の人々との交流・学習活動の推進
- 公民館等の社会教育施設を活用した地域活動の推進

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは、学校と地域住民などが力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

地域学校協働活動

地域における学習支援・体験活動など、地域と学校が連携、協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく活動の総称です。

(3) 文化・交流機会の提供 【再掲】(戦略3施策1(3)③参照)

【KPI】

指標名	基準値	目標値 (R14年度)
石川県民大学校 修了者数	20,123人 (R4年度までの累計)	25,000人 (累計)
公立小中義務教育 学校における コミュニティ・ スクール導入校数	145校 (R5年度)	281校 (全校)
県立図書館の 年間来館者数 【再掲】	78万人 (R4年度) ※ 7/16 ~ 3/31	120万人